

超ざっくり解説！南部氏一族の歴史！！

■ 南部氏一族について

糠部に入部した南部氏は、郡中に分散し、それぞれの居城を構えた。現在の青森県南部町・三戸町一帯を領した三戸南部家のみは例外的に「南部」の姓を名乗り続けたが、それ以外の氏族はそれぞれが居城を構えた地名へと姓を改めた(一戸南部家=「一戸」、七戸南部家=「七戸」、根城南部家=「八戸」)。

第一章 糠部入部

【期間】 糠部入部から安藤氏攻略まで
(14世紀中頃から嘉吉2年(1442))

【勢力域】 糠部など

甲斐国南部郷(山梨県南巨摩郡南部町一帯)を治めていた南部氏は、14世紀頃に糠部(現青森県東半から岩手県北半)に移り住むと、郡内に分散し、それぞれの城館を構えた(④七戸城・⑤根城・⑥聖寿寺館・一戸城)後に南部氏一族は分家や家臣、あるいは友好関係にある国衆らと連携し(一揆)、広く北奥社会を治めた(③野辺地城、⑨九戸城、⑩久慈城)。また、この段階の南部氏は糠部以外の遠隔地にも複数の領地を持っていた(⑭金澤城)。

第二章 津軽侵入

【期間】 十三湊安藤氏攻略から大浦氏蜂起まで
(嘉吉2年～元龜2年(1571))

【勢力域】 糠部 + 津軽

15世紀中葉以降、隣部への侵攻を進めた南部氏一族を中心とする一揆は、嘉吉2年に十三湊安藤氏の居館である福島城(青森県五所川原市)を攻略した。以降、南部氏一族は津軽(青森県西半)に侵出し、友好関係にあった浪岡北畠氏とともに同地を掌握した(①種里城・②浪岡城・石川城)。

第三章 九戸一揆

【期間】 大浦氏蜂起から奥羽再仕置まで
(元龜2年～天正19年(1591))

【勢力域】 糠部 + 志和など

以降も隣部への侵攻を進めた南部氏一族を中心とする一揆は、天正16年には高水寺斯波氏の居城⑩高水寺城を攻略した。しかし、一揆内の団結は決して強固ではなく、内紛が頻発した。これら内憂に加え、天正17年には大浦為信に津軽切り取り(独立)、翌18年には安東実季に比内奪還を許すなど、外部勢力の反抗も激化した。この頃になると、一揆の中でも三戸南部家と九戸氏の対立が顕在化し、天正18年冬以降、郡中は三戸方(⑦三戸城・⑤根城)と九戸方(⑧九戸城・④七戸城・⑩久慈城)に分かれて争った(九戸一揆)。翌年9月、三戸方は豊臣奥羽再仕置軍の加勢を得て、九戸方の拠点である九戸城を落とした。豊臣政権の後ろ盾を得た三戸南部家は名実ともに「大名」となり、大浦氏を除く、主要な国衆を家臣化することに成功した。

第四章 盛岡藩誕生

【期間】 奥羽再仕置から戊辰戦争まで
(天正19年～慶應4年(1868))

【領土】 糠部 + 志和など

大名となった三戸南部家は、自らの居城を⑧九戸城に移し、城名を福岡城へ改めた。さらに寛永10年(1633)には南に大きく拡がった領地(盛岡藩)に合わせるように居城を⑩盛岡城へと移し、以降近世を通し藩主の居屋敷とした。中世城館の多くは廃城となったが、一部主要城館は残され、支城や代官所として活用された(③野辺地城、④七戸城・⑦三戸城・⑧九戸城(=福岡城)・⑩高水寺城(=郡山城)・⑫鍋倉城・⑬花巻城)。

南部氏一族

【三戸南部家】

姓は「南部」。⑥聖寿寺館、⑦三戸城、(⑧九戸城⇒)福岡城、⑩盛岡城を居城とした一族。盛岡南部家ともいう。後の盛岡藩主家。

※北氏

姓は「北」。三戸南部家の譜代家臣。後に③花巻城の城代を勤めた。

※大浦氏

姓は「南部」。久慈を出自とする三戸南部家家臣。津軽に入り①種里城を築く。後裔は南部氏一族に反抗し独立を図り、後に姓を「津軽」に改め、弘前藩主家となる。

【根城南部家】

姓は「八戸」。⑤根城を居城とした一族。中世段階は独立領主格であった

が、後に三戸南部家家臣に転じる。岩手県遠野市に村替し、⑫鍋倉城に入った。遠野南部家ともいう。

【七戸南部家】

姓は「七戸」。④七戸城を居城とした一族。室町時代に根城南部家から分立した。九戸一揆に際しては九戸方に与し、廃絶した。

※野辺地氏

姓は「野辺地」。野辺地城を居城とした一族。七戸南部家から分立したと考えられている。

【一戸南部家】

姓は「一戸」。一戸城を居城とした一族。南部氏一族の内紛の結果、天正9年(1581)に嫡家は廃絶した。

友好関係にある国衆・名族

【九戸氏】

姓は「九戸」。⑧九戸城を居城とした一族。出自には諸説ある。当初は南部氏一族と友好関係にあったが、後に三戸南部家と反目し九戸一揆を起こす。結果この戦いに破れ嫡家は廃絶した。

【久慈氏】

姓は「久慈」。⑩久慈城を居城とした一族。九戸一揆に際しては九戸方に与し、廃絶した。

【浪岡北畠氏】

姓は「北畠」。②浪岡城を居城とした名族。北畠頼家の末裔と伝えられる。15世紀中頃、南部氏一族の庇護を受け津軽に入った。天正6年(1578)に大浦氏の攻撃を受け、廃絶した。

敵対関係にある国衆・名族

【十三湊安藤氏】

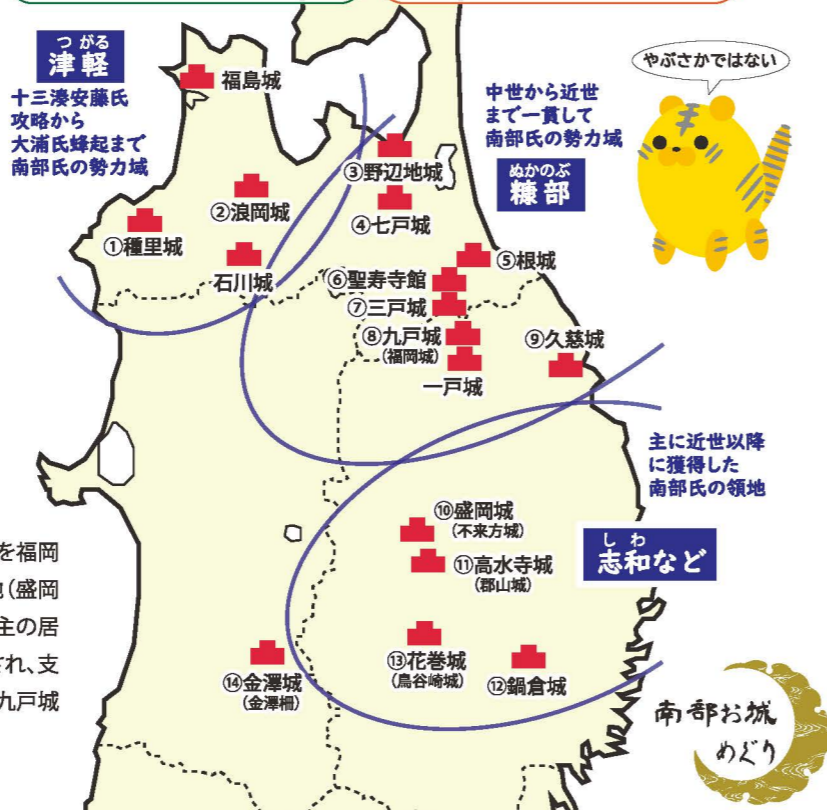
姓は「安藤」「安東」。南部氏一族と敵対した津軽の国衆。嘉吉2年(1442)に居城である福島城(青森県五所川原市)を落とされ蝦夷地に逃れた。

【斯波氏】

姓は「斯波」。南部氏一族と敵対した志和の名族。天正16年(1588)に居城である⑩高水寺城を落とされ、廃絶した。

【稗貫氏】

姓は「稗貫」。稗貫の国衆で鳥谷崎城(⇒⑬花巻城)を居城とした。奥羽仕置により領地を失い、これを不服とし何度も蜂起したが、いずれも制圧され嫡家は廃絶した(和賀稗貫一揆・岩崎一揆)。



なんぶのワリイン

実施期間：令和4年7月16日～10月31日



※ランギマルさん(左・乱丸)とボタンマルさん(右・牡丹丸)は、江戸時代に盛岡城に住んでいたトラさんです。

「割印(ワリイン)」ってなに？

■「割印」とは...
それぞれに関連することを示すために、2枚の紙片にまたがせて押す印を押すことを「割印(ワリイン)」といいます。南部お城めぐりでは、それぞれのお城の間にちなんだ14城館11種類の組み合わせの「割印」をご用意いたしました。
「割印」は来場者の皆さんに押印していただきます。縦に押すもよし、横に押すもよし。1枚の御城印に複数の「割印」を押すもよし。「割印」を通し、より深く南部の歴史をお楽しみください。

■「御城印」とは...
お城の歴史にゆかりある家紋や題字をあしらった和紙のお札を御城印(ごじょういん)と呼びます。お城の来城記念となるものです。



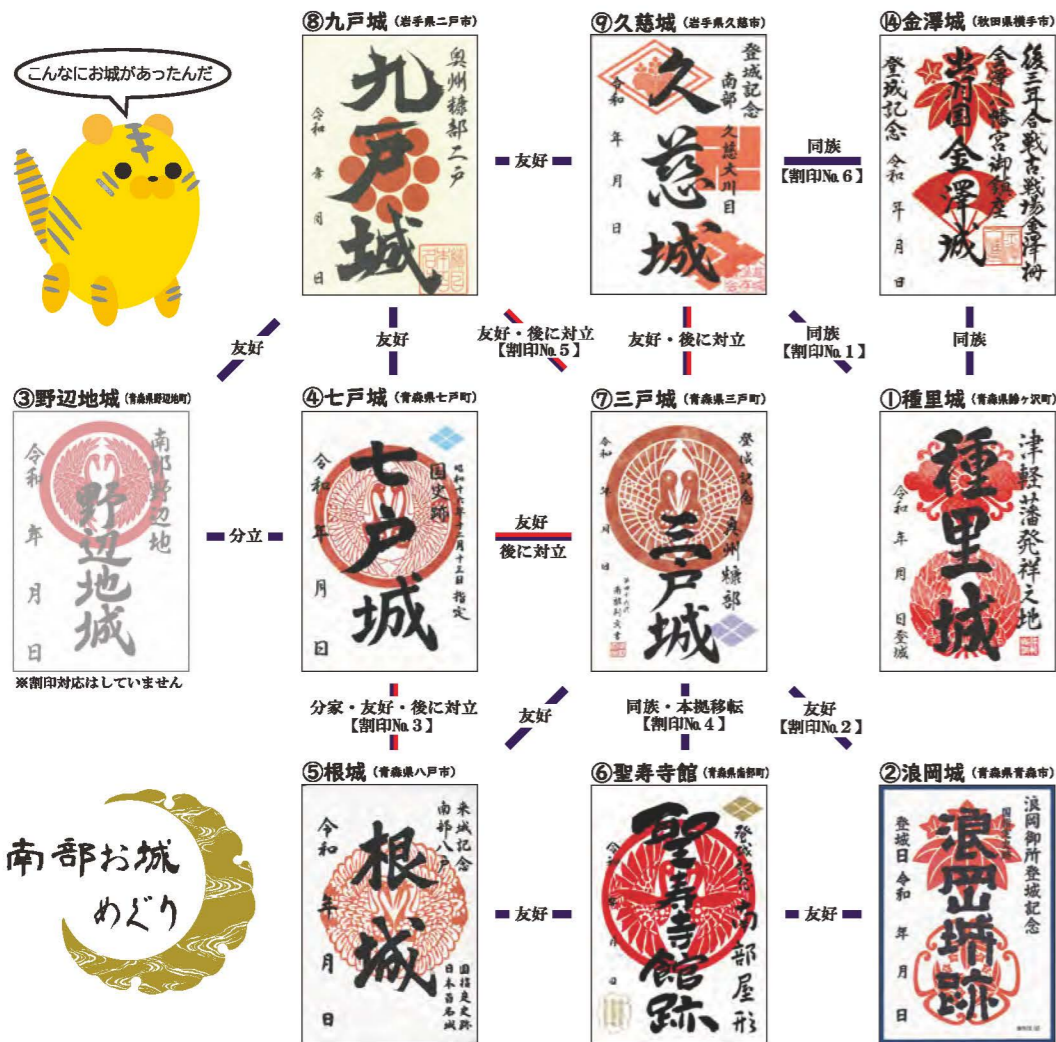
【事務局】 八戸市博物館(青森県八戸市大字根城字東橋35-1) 電話:0178-44-8111
南部お城めぐりフェイスブック⇒<https://www.facebook.com/NanbuGojoinProject>
南部お城めぐりガイド⇒<https://hcm-hit.github.io/nanbu-castles-tours/>

「割印」押印の心得七ヶ条

- 一、南部お城めぐり令和4年度企画「なんぶのワリイン」の実施期間は令和4年7月16日(土)から令和4年10月31日(日)です。
 - 一、「割印」押印可能な御城印は、記入されている日付が上記期間中であるものに限り(1枚以上)。
 - 一、「割印」押印を希望される方は、販売先スタッフを対象の2枚の御城印を提示し、「割印」押印を希望する旨をお申し出下さい。
 - 一、「割印」押印は無料です。
 - 一、「割印」押印はご来場者様の責任でお願いいたします。また、押印ミスについて返金や返品などの補償はできません。
 - 一、「割印」のスタンプカラーは販売先で異なります。様々な印象の割印をお楽しみください。
 - 一、「割印」の組み合わせや位置を良くご確認の上、押印して下さい。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況により、本企画は延期または中止する場合があります。
- ※「割印」押印先で実施している新型コロナウイルス感染症拡大予防対策にご協力をお願いいたします。対策内容については、各施設のホームページ等をご確認ください。
 - ※「なんぶのワリイン」の11種類の割印は今年度のみの限定仕様ではありません。次年度以降も期間限定で、同様の企画を実施します。慌てずゆっくりと、南部の歴史をお楽しみください。

南部氏のお城相関図【中世編】

糠部に入部した南部氏は、糠部郡中に分散し、それぞれの居城を構えた(④七戸城、⑤根城、⑥聖寿寺館、⑦三戸城)。後に南部氏一族は、分家や家臣(①種里城、③野辺地城、⑭金澤城)、在地の友好的な国衆ら(②浪岡城、⑧九戸城、⑨久慈城)と連携し、広く北奥羽を治めた。しかし、天正18年頃になると三戸南部氏と九戸氏の対立が激化し、結果三戸方(⑦三戸城・⑤根城・豊臣奥羽再仕置軍)と九戸方(⑧九戸城、④七戸城、⑨久慈城)に分かれ雄雄を決した。これが世にいう九戸一揆である。



南部氏のお城相関図【近世編】

九戸一揆に勝利し、名実ともに大名となった三戸南部氏は、自らの本拠を⑦三戸城から⑧九戸城(⇒福岡城)、⑩盛岡城へと移した。中世城館の多くは廃城になったが、いくつかの拠点城館は残され、支城や代官所に転用され、広大な盛岡藩領を運営する拠点となった(④七戸城、⑦三戸城、⑧九戸城、⑪高水寺城、⑫鍋倉城、⑬花巻城)。



「御城印」販売先・「割印」押印先一覧

- ①種里城 割印No.1
1: 光信公の館 (TEL: 0173-79-2535)
青森県西津軽郡錦ヶ沢町大字種里町字大柳 90
2: 錦ヶ沢町中央公民館 (TEL: 0173-72-2859)
青森県西津軽郡錦ヶ沢町大字本町 209-2
青森市中世の館 (TEL: 0172-62-1020)
青森県青森市浪岡字岡田 43
- ②浪岡城 割印No.2
野辺地町立歴史民俗資料館 (TEL: 0175-64-9494)
青森県上北郡野辺地町字野辺地 1-3
七戸町観光交流センター (TEL: 0176-51-6100)
青森県上北郡七戸町字荒熊内 207
八戸市博物館 (TEL: 0178-44-8111)
青森県八戸市大字根城字東構 35-1
- ③野辺地城 割印No.3
史跡聖寿寺館跡案内所 (TEL: 0179-23-4711)
青森県三戸郡南部町大字小向字正寿寺 81-2
三戸町立歴史民俗資料館 (TEL: 0179-22-2739)
青森県三戸郡三戸町大字梅内字城ノ下 34-29
- ④七戸城 割印No.3
二戸市埋蔵文化財センター (TEL: 0195-23-8020)
岩手県二戸市福岡字八幡下 11-1
- ⑤根城 割印No.3・7
道の駅くじ「やませ土風館」 (TEL: 0194-66-9200)
岩手県久慈市中町二丁目 5 番 6
- ⑥聖寿寺館 割印No.4
もりおか歴史文化館 (TEL: 019-681-2100)
岩手県盛岡市内丸 1-50
- ⑦三戸城 割印No.2・4・5
紫波町情報交流館 オガールプラザ内 (TEL: 019-672-2918)
岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前 2-3-3
- ⑧九戸城 割印No.5・8
遠野市立博物館 (TEL: 0198-62-2340)
岩手県遠野市東館町 3-9
- ⑨久慈城 割印No.1・6
花巻市博物館 (TEL: 0198-32-1030)
岩手県花巻市高松 26-8-1
- ⑩盛岡城 割印No.8・9・10
後三年合戦八戸資料館 (TEL: 0182-37-3510)
秋田県横手市金沢中野字根小屋 102 番地 4
- ⑪高水寺城 割印No.9
⑫鍋倉城 割印No.7・11
⑬花巻城 割印No.10・11
⑭金澤城 割印No.6

マークの販売先は、令和4年度企画「なんぶのワリン」期間中に「割印」押印が可能です(令和4年7月16日(土)～10月31日(月))
ただし同企画は、新型コロナウイルス感染症の状況により、延期または中止する場合があります。
※施設毎に開館日・開館時間等は異なります。事前に御確認の上、お出かけください。

割印No. 1 ①種里城 × ④久慈城 『御出立光信公御入部』
延徳3年(1491)、南部光信は軍勢を率いて久慈を
出立、種里城に入り勢力を拡大した。光信を初
代とする大浦氏は後に津軽藩を興す津軽為信を世
に出し、光信は「津軽藩始祖」と崇められている。

割印No. 4 ⑥聖寿寺館 × ⑦三戸城 『本三戸炎上新三戸』
本三戸(聖寿寺館)を拠点とした三戸南部家は、巧
みな戦略により北奥羽で最大勢力を築いた。天文8
年更なる領土拡大と本三戸の炎上を契機に、中世糠
部最大の山城「三戸城」へ拠点を移し、覇権獲得へ
と乗り出した。

割印No. 7 ⑤根城 × ⑫鍋倉城 『八戸弥六郎直義』
根城南部家(遠野南部家)当主は代々、八戸弥六郎を
名乗り、藩の筆頭家老を務めた。直義は1620年分家
新田家から養子に入り家督を継ぐ。1627年藩主の命
で八戸から遠野に国替し、藩境警護にあたりながら遠
野の礎を築く。

割印No. 10 ⑩盛岡城 × ⑬花巻城 『盛岡城北上川花巻城』
盛岡、花巻にとって北上川の存在は城下の防
衛的・経済的にも重要な河川であった。一方
では脅威ともなり、江戸時代に北上川の氾濫
による洪水で両城下町ともに甚大な被害を受
けており、改修工事を行っている。

割印No. 2 ②浪岡城 × ⑦三戸城 『南部政信浪岡城派遣』
戦国末期、津軽地方一帯は旧来勢力の南部氏と新興
勢力の津軽氏によって、その支配権を巡る熾烈な争
いが繰り返されていた。当主南部信直は、津軽の
重要拠点「浪岡城」へ弟の政信を郡代として派遣し
た。

割印No. 5 ⑦三戸城 × ⑧九戸城 『九戸一揆』
豊臣秀吉に帰属した南部信直は南部内七郡の領主と
して認められる。一方で九戸政実を筆頭に在地領主
らは独立維持を貫き、両者の対立は激化。天正19年、
九戸氏と三戸家の存続をかけた戦いが奥州糠部の地
で始まった。

割印No. 8 ⑧九戸城 × ⑩盛岡城 『福岡城』
天正19年(1591)に起こった奥羽再仕置の最後の戦
場となった九戸城。落城後、九戸政実を降した南部信
直が入城し「福岡城」と改称した。寛永10年
(1633)に信直の孫の重直が、盛岡城に入るまで三戸
南部氏の拠点となった。

割印No. 11 ⑫鍋倉城 × ⑬花巻城 『盛岡藩領南端守護』
鍋倉城と花巻城は、広大な盛岡藩領において、
最も警戒すべき伊達仙台藩との境で、最前線
基地ともいえる重要な役割を担っていた。この
重要拠点に盛岡藩は一族の根城南部氏直義
と藩主子息の政直を配置した。

割印No. 3 ④七戸城 × ⑤根城 『七戸応永己亥八戸』
14世紀後半、根城南部家当主南部政光は家督を甥に
譲り、自らは七戸城に隠居した。政光の後裔は七戸
南部家として分立、以降根城南部家と七戸南部家は
「ぬかのふなんふ一族」を支える有力氏族として共存
共栄した。

割印No. 6 ⑨久慈城 × ⑭金澤城 『金澤右京亮南部』
金澤右京亮家光は出羽仙北金澤に所領を有していた
が、侍の一揆により討たれ、幼少の嫡男(南部右京
亮家信)は家光の家臣により南部の地に届けられ、
後に家信は本領であった下久慈を知行したと伝えら
れている。

割印No. 9 ⑩盛岡城 × ⑪高水寺城 『郡山城』
天正16年(1588)、高水寺城主斯波詮直は南部信
直に敗北。高水寺城は郡山城と改称された。盛岡城
築城に際しては南部利直の居城となったが寛文7年
(1667)破却され、古材は盛岡城本丸に用いられた
ともいわれる。